

令和2年度 第1回磐田市遠江国分寺跡整備委員会における委員よりのご意見

本年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止を考慮し、磐田市遠江国分寺跡整備委員会を分散開催及び書面会議にて実施した。分散開催は市内在住委員を、書面会議は県外在住委員を対象としている。

○整備委員会委員

【専門委員】

上原真人委員、石上英一委員、箱崎和久委員、中島義晴委員、平野吾郎委員

【一般委員】

鈴木喜文委員、鳥居節夫委員、澤元教哲委員、小杉達委員、大場雅行委員、小杉泰久委員

○事務局

磐田市教育委員会教育部文化財課

伊東直久課長、竹内直文課長補佐、大村至広主任、鈴木康大主事

○実施設計委託業者

株式会社フジヤマ

〈整備委員会日程〉

市内在住委員（分散開催方式）

令和3年2月2日 専門委員 1名

令和3年2月8日 一般委員 2名

令和3年2月9日 一般委員 4名（2名ずつにわけて実施）

県外在住委員（書面会議方式）

令和3年2月12日 書面会議用資料送付 専門委員 4名

～令和3年2月22日 意見聴取

令和3年3月5日 意見集約書の送付

専門委員よりの意見

〔金堂について〕

- ・金堂基壇の復元について、図面でみると歪んで見えるが、発掘調査成果に即した形での復元であれば問題ない。発掘して明らかになった遺構に即して整備を行わなければ、発掘した意味がなくなる。
- ・石階段の復元に使用する石材について、できるだけ発掘調査で確認された石材に近いものを選定した方が望ましい。
- ・階段地覆の構造について、現存最古の事例である平等院鳳凰堂須弥壇上高欄の構造を参照したらどうか。雨水対策をとった構造とする必要がある。
- ・金堂基壇上面の礎石について、設置するのであれば、自然石を用いた方が望ましい。また、新設の礎石がどれなのか判別できるように、鋳を打つなどの工夫が必要である。
- ・地覆石については、復元に至るまでの検討が不十分である。

〔回廊について〕

- ・回廊については、礎石も根石も残っていないため、整備に際しては柱位置を表示することはできない。説明板などで示すにとどめるべきである。

一般委員よりの意見

〔工事期間中の史跡公園利用について〕

- ・整備工事期間中、史跡公園内で国分寺まつりやほかのイベントは実施できないのか。
⇒（事務局回答）
整備工事のために史跡公園全域を封鎖するわけではなく、工事完了部分や未着工部分については開放するため、使用可能な部分で国分寺まつり等のイベントは開催することはできる。
- ・整備工事期間中もイベントの開催を検討したいため、今後の整備スケジュールを示してほしい。計画が変動する可能性は承知しているが、見通しがない場合よりは対策し易い。

〔公園内のバリアフリーについて〕

- ・車椅子は回廊内から金堂院内に入れないのか。
⇒（事務局回答）
中門や回廊にスロープを設置することで金堂院内と園路をつなぎ、燈籠や石階段を見学できるような動線を検討している。スロープについては、車椅子が昇降し易い傾斜角度とし、史跡の雰囲気と調和したものとする。

〔樹木整理について〕

・公園内の樹木伐採について、史跡公園として整備するのであれば、当時の姿を再現する方が重要である。その方が史跡として見学者にも理解し易いし、感動が与えられると思う。

〔その他〕

・工事車両はどこから進入するのか。また、出入りの頻度はどれくらいか。

⇒（事務局回答）

工事車両は史跡公園の南側から進入する予定であるが、仮設道を設置する計画もあり、公園北側から出入りすることもある。車両の出入りはそこまで激しくなく、渋滞が発生するほどではないと考えている。

・入口には史跡だとわかるような表示がほしい。また、県道から見える位置にも国分寺への案内板等を設置し、市民が訪れやすいようにしてほしい。

・教育の場として、子どもたちが行けるような雰囲気のある史跡公園にしてほしい。